

第2回 苫小牧港港湾脱炭素化推進協議会 議事概要

(令和6年2月6日(火) 14:00~16:00)

事務局からの情報提供

- 次世代エネルギーの供給拠点の形成に向けた検討 WG、ブルーカーボン生態系の創出に向けた検討 WG の2つの WG について、開催状況を説明した。

議題

- 事務局より構成員の変更について提案し、了承された。
- 令和6年度末に策定・公表予定の苫小牧港港湾脱炭素化推進計画の案について、説明ならびに質疑応答を行った。

今後の進め方

- 令和5年度中の計画策定を目指し、最終調整を実施していく旨、また来年度以降も定期的に本協議会を開催していく旨を説明した。

その他

- 国土交通省北海道開発局より、関連する国の施策動向やブルーカーボンの取組について情報提供をいただいた。

<主な意見・コメント>

- 苫小牧港の効率化や生産性向上が、間接的に脱炭素に寄与するような観点も意識してほしい。
- 2030年といった年次にこだわらず、早くできる取組は可能な限り早め実施していくべき。新たな技術を取り入れていくことを事業者として意識して取り組んでいきたい。
- 今後実現性の高まる取組が出てくることも想定されることから、今後の動きに応じて本計画をブラッシュアップしていくべき。
- 苫小牧港は水素、アンモニア、CCS、合成燃料といった役割を担っていく必要がある。
- 本計画は北海道ひいては我が国全体への波及効果が大きいことから、全体の広がりも意識した計画とすべき。